

志布志市は6日、ユニ・チャーム（東京）、そおりサイクルセンター（大崎町）と共同で使用済み紙おむつのリサイクルに向けた実証試験を始めたと発表した。市内と大崎町で収集した紙おむつを、再利用が可能な上質パルプに変える。使用済み紙おむつを上質パルプに再資源化する実証試験は「世界初」という。

市とユニ・チャームが11月、試験開始の協定を結んだ。2017年3月までに事業化の可能性を判断、さらに検証を進め、20年の本格事業化を目指す。再生品の活用や販売

紙おむつリサイクル

志布志市とユニ・チャーム

世界初、実証試験スタート

方法も模索する。

た。

市内と大崎町内では11月、4地区と2事業所を対象に、モデル的な分別収集も始まり、無菌の上質パルプにする

使用済み紙おむつに含まれる高分子吸収材をオゾン処理

独自の技術をユニ・チャームが提供。市が実証機を、そおりサイクルセンター内に設置した。地方創生加速化交付金などを活用する。



使用済み紙おむつ回収用のごみ袋を持つ志布志市の本田修一市長（左）と、そおりサイクルセンターの宮地光弘社長
＝6日、志布志市役所

焼却施設がないため、市は27種類のごみ分別でリサイクルを進めているが、紙おむつは埋め立て処分してきた。本田修一市長は「再資源化の推進で最終処分場の延命化を図り、二酸化炭素排出量の削減にもつなげたい」と話す。ユニ・チャームは「メーカーの責任としてリサイクルに取り組み、環境面で貢献したい」としている。（見美川勝）